

「仙台市図書館利用者懇談会」（令和4年度）を実施しました

日頃、仙台市図書館を利用いただいている方々から様々な意見を直接伺い、今後の図書館サービスの向上に活かせるよう、全館（7館）で利用者懇談会を実施しました。



（市民図書館での様子）

《実施状況》

館名	実施日時、会場 出席者
市民図書館	令和5年2月18日（土）10時～11時30分 せんだいメディアテーク 2階会議室 出席者7名（個人利用者3名、市民図書館4名）
泉図書館	令和5年2月8日（水）14時30分～15時50分 泉図書館 大研修室 出席者9名（文庫1名、配架ボランティア1名、小学校1名、のびすく1名、泉図書館5名）
宮城野図書館	令和5年2月1日（水）10時30分～12時 宮城野図書館 視聴覚室 出席者9名（小学校1名、ボランティア団体1名、区文化センター1名、区中央市民センター1名、児童館・のびすく1名、宮城野図書館4名）
若林図書館	令和5年2月16日（木）14時～15時 若林図書館 視聴覚室 出席者13名（ボランティア団体1名、図書館応援団1名、文庫団体1名、区文化センター1名、区中央市民センター2名、児童館1名、社会福祉協議会区事務所1名、若林図書館3名、指定管理者2名）
太白図書館	令和5年2月16日（木）11時～12時 太白区中央市民センター会議室 出席者8名（配架ボランティア3名、太白図書館2名、短大実習生3名）

館名	実施日時、会場 出席者
広瀬図書館	令和5年2月3日（金）13時30分～15時 広瀬市民センター 会議室 出席者9名（個人利用者3名、児童館1名、広瀬図書館3名、指定管理者2名）
榴岡図書館	令和5年2月10日（金）13時30分～15時 生涯学習支援センター 第2セミナー室 出席者9名（個人利用者2名、小学校1名、生涯学習支援センター1名、榴岡図書館3名、指定管理者2名）

図書館から令和4年度の図書館事業の概要と取り組み状況を説明し、出席者全員から意見や要望をいただき、説明や回答を行いました。

たくさんのご意見をいただいた中から、主なものをご紹介します。

《出席者からの主な意見》

【市民図書館】

- ・Myライブラリは、子どもを含めた複数分のログインをするために利用者番号を1人分ずつ入力し1冊ずつ延長申請を進めるのが大変である。アプリ機能で1度のログインにより利用者を切替えて延長の一括手続きがスムーズに出来ると良い。
- ・2階の児童向け工作本エリアは建物のチューブにより書棚との距離が狭いため本が取り出しにくく、陰になって暗く見えにくいので本棚の配置を是非考えていただきたい。
- ・メディアテークに限ったことではないが、図書館に行っても疲れるし、座るところがないという高齢者の声を聞くので、館内に椅子を増やし、高齢者サービスの充実をお願いしたい。柔らかい座面の椅子は、高齢者には座りにくいので普通の椅子が有難い。
- ・借りに来た時に本棚のジャンルの表示を遠目からも探せるように見出しをお願いしたい。デザイン上の制約があると以前説明されたが、案内図と見合わせてウロウロしてしまう。
- ・本を選びながら一時的に置く場が書架の間にあると便利である。
- ・電子書籍は返却の必要がないのが良い。これまで図鑑は借りると重いので館内で閲覧していたが電子書籍は画像が美しく便利である。これからもっと画集や写真集などの蔵書も増やしてほしい。

【泉図書館】

- ・かつて15文庫が活動していたが、世話人の高齢化などもあり、だんだん減り現在活動しているのは5文庫。新しい世話人も増えず、現在活動中の文庫もどこまで続くかと不安の中活動している。
- ・ボランティアのために図書館に来ると言うよりは、自分の本の返却や予約資料の受け取りなどに合わせて配架ボランティアの活動をしている。また、配架しながら新しい本、面白そうな本と出会うことができ楽しんで活動しているので、来年度も活動していく予定。
- ・配架作業中、自分が分かる範囲で本を探せない利用者のフォローをすることがあるが、そのときは、他者と関わることであったらうれしくなる。

- ・4年生へのブックトークの際は、内容もお任せでき、テーマに合った本をテンポよく紹介してもらえらるので、子どもたちは飽きず、興味を持って取り組んでいる様子を見ることができた。
- ・今年度はブックトークボランティアのランプにも来てもらい、支援学級を含め、ほぼ全学年クラスごと、1時間たっぷり本を紹介してもらった。感謝している。
- ・中高生対象のビブリオバトルでは図書館と一緒に活動したが、仙台市図書館 Twitter を見て来たという大学生が飛び入り参加し、Twitter を見ているものなのだと知ることもできた。
- ・のびすく泉中央4階の中高生フロアには、図書館職員が選書した本を置いてもらっているが、面白い本を選んでくれているのでみんな本を手に入れている。自分たちが選ぶのとは違う、新しい本との出会いがあるように感じている。
- ・将監分室がなくなったのはとても残念だった。いろいろな考えがあつてのことのようだが地域の人が反対しないとあつという間に分室がなくなってしまふこともあるのだと感じた。
- ・虹の丘地域は、分室はないがBMが巡回している。みなさんBMがくるのを楽しみに待っている。BMに来てもらって本当に良かった。ありがたい。
- ・学校で以前は1冊ずつ消毒し、消毒スプレーした本は乾くまでしばらく日なたに置くようにしていたため、友達が借りていた本をすぐ借りたいと言われても、今日は借りられないので1日待つと断ることもあつた。今は返却された本をすぐ借りることも出来るようになったし、入口の消毒やパーテーションがあるおかげで、子どもたちの委員会での接触も戻ってきた。

【宮城野図書館】

- ・若い人たちには紙媒体と電子媒体の両方あると、本に触れる機会も多くなり、良いと思う。
- ・電子図書館を使ってみたが、電子書籍は読んでも記憶に残りにくい気がした。普段、電子書籍を購入することもあるが、質感や手触りなど紙の本ならではの良さもある。
- ・職場体験に来た中学生に、普段本を読んでいるかと聞くと、読んでいないという回答が多い。子どもの時に読んだ絵本を読み返すと、以前読んだ時とは違う感想を持つことがあり、その感想を友達と話し合ったりしてはどうかと提案したりしている。新聞も、紙の新聞は紙面を開いたときに、普段興味のない内容でも目に飛び込んでくる記事を読むことができるし、電子版は速報性を活かしてニュースなどを知ることができるので、併用すると楽しいことを伝えている。
- ・「ぬいぐるみおとまり会」はもともと他で先例のあつたものだが、実施してみたら評判が良かった。実績のあるものは取り入れやすいので、今後も色々な情報を集めていきたい。
- ・先日、芥川賞を受賞した地元の作家の作品を扱った事業を図書館でできないか。その他、来年度予定されている G7 や全国都市緑化仙台フェアに関連した仕掛けができないか。
- ・図書館が9時半に開館するまで児童館で本を読みたいと言われることがあるが、ご遠慮いただいている。9時開館は難しいか。
- ・ブックトークで学校に来てもらっているが、効果は大きいと感じる。子どもたちは紹介された本の話をしづらくしていることもある。
- ・視覚障害のある方が音声で本を聞くことができる書籍を揃えたサピエ図書館など、便利なサービスが増えても、その場で本を読んでもらえる対面朗読の需要はあるようだ。アナログな手法だが、生の声を聴きたいという意見もある。また、図書館に来ることが外出するきっかけにもなっているようだ。
- ・コロナ禍で、のびすくでもオンライン相談をやっていたが、直接会って相談したいという方は多い。集合イベントの人気はあるが、オンラインイベントの申込みは低調。対面のニーズはあつと感じている。

【若林図書館】

- ・「読書」の枠を超えた、トークイベントの実施などが興味深い。
- ・テーマ展示は惹きつけられるし、YA向けのコーナーもよい。英語の多読についてのテーマ展示も希望する。
- ・せんだい電子図書館の認知度が低いようだが、もっとPRをしてほしい。
- ・古い本も保存しててありがたいが、ソフトウェアの本はバージョンが新しいものを望んでいる。
- ・他の市内図書館に比べて若林図書館はのどかな場所に位置しているにもかかわらず、土日の利用者が多いと感じる。これからも地域に愛される図書館であってほしい。
- ・ぬいぐるみおとまり会やビブリオバトルなど、子ども向け、YA向けのイベントが実施されていて誇らしく感じる。
- ・平日開催のおはなし会に参加できない利用者のためにも、土日の開催を希望する。
- ・若林区文化センター大規模改修工事期間は駐車場が利用不可となるが、足が不自由なメンバーがいる。近くに駐車できるスペースがほしい。
- ・学校と部活動が切り離されるようだから、YA世代が足を運ぶ図書館になるよう期待している。
- ・コロナ禍以前はもう少しボランティアが活動していたが、現在は自分一人のようだ。今後募集は考えているのだろうか。
- ・小学生は文字が多い本をなかなか読まないの図書館の行事を紹介している。
- ・関係各所への告知等の協力はできるので声をかけてほしい。また事業を企画する職員もいるので、今後の連携も視野に入れたい。

【太白図書館】

- ・赤ちゃん絵本のコーナー（おはなしのへや）は、別置記号の中でさらにテプラに絵を印字して分けている、とてもわかりやすい。
- ・専門書・実用書は棚がいっぱいのことも多い。図書を移動させたいが、利用者の邪魔になってしまうため思うように動かせない。
- ・ご自分で探したい方も多いと感じる。フロアマップを一緒に見て探すと、晴れやかで嬉しそうな顔になる。たとえ見つけられなくても、納得した様子になる。
- ・資料票の見方だけが知りたい方、全て揃えて持ってきてほしい方、カウンターに気軽に行ける方、様々な使い方とご希望がある。
- ・図書館用語が伝わりにくい。「請求記号」とは何か、ということ。
- ・利用者に直接声をかけていいのか、迷うこともある。
例) 子供用の閲覧席を大人が使っている、携帯電話で話をしている等

【広瀬図書館】

- ・児童館として来年度は周りの施設と連携して子どもたちのため、子育ての力になれるようなことをしていきたい。
- ・児童館職員が児童クラブの子どもたちに読み聞かせを行う機会も多くあるため、職員研修として読み聞かせのテクニックや方法を教えてほしい。
- ・大沢小学校の子どもたちの利用が多いが学校での取組などもあり、本に興味のある子どもが多い。本に触れる機会を増やしたいので児童館にもブックトークに来ていただきたい。

- ・スマホやパソコンなどによるインターネットの利用が普及して、図書・書籍が利用されなくなっている状況に対して危機意識を持っている。図書や書籍を実際に手に取って考えながら読むということは非常に大切なことだと思う。
- ・インターネット（Myライブラリ）サービスで、貸出期限の延長処理を行う際、処理の対象とする資料をひとつひとつ選択しなければならない。すべての資料をまとめて選択できるような機能を追加してもらえないか。
- ・本の読み聞かせは、読んでもらった思い出が次の利用に繋がるのでとてもいいなと思う。
- ・出典のあやふやなものに頼ってしまう世代がこれから増えていくと思うが、その人たちにどのようにして図書館を使ってもらおうか。地道に児童館などと連携していくことが大切だと思う。
- ・図書館に来る親の子どもはやはり図書館に来ると思うし、子どもも図書館を利用していくと思う。図書館に来ない人たちに本の素晴らしさ、本を読むことで広がる奥行きをどう伝えていくか。
- ・仙台市図書館 Twitter も見てはいるが、アカウントをフォローしていてもタイムライン上では投稿がどんどん流れていってしまう。リツイートするなどしない限り情報を残しておくこともできない。

【榴岡図書館】

- ・飛沫防止シートやアクリル板越しに話すと、マスクで声がこもり聞こえづらく、声も大きくなるのだと思う。カウンターの声が響くのであれば、小さいスピーカーを設置するなど検討した方が良い。
- ・カウンター利用時、また複写申し込みなどで分からないことを聞いたり、お世話になっている。いつも「わからないことはないですか」等話しかけてくれてありがたい。そのフレンドリーさが榴岡図書館のいいところだと思う。話しやすさの雰囲気は変えないでほしい。
- ・エレベーターの使用状況から、4階の利用が一番多いが、不審者対策や急病人が出た時の体制はどのように考えているのか。困った時は支援センターの男性職員を呼んでもいいと伝えてはいるが、なるべく現場に男性がいた方が良くと思う。
- ・防犯グッズは、職員が利用者を守ることを前提としないと動けない。刺股はチームで対応しないと防犯にはならない。もっと考えるのであれば、大きな音を出す、催涙スプレーや蜂ジェットで対応する、カラーボールをそろえる。その時の対応によって必要なものは警察の方が教えてくれると思う。また、5階に声をかけて良いと言われているようなので、そういった連携は引き続き必要だと思う。
- ・ハード面を整えることは難しいと思うが、ソフト面を整えることは比較的すぐにできると思う。図書館が対応に苦労していることは知っている。「本を読む人はみんな優しいね」や「図書館に来る人は大きな声を出さないね」など、標語を募ったり貼ったりしても良いと思う。
- ・借りるときにカバーを必ず持参するが、イベントのチラシや、図書館だよりのバックナンバーでもいいので、カバーになるものが置いてあると嬉しい。
- ・閲覧席がカウンターから離れており、選んだ本を閲覧席まで持って行って読んでいいか躊躇する時がある。何か案内があると良い。
- ・図書館が頑張っているのはスタッフの様子からも窺える。今後も頑張ってもらいたい。